



令和元年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
「認知症の当事者と家族を一体的に支援する支援プログラムのあり方に関する調査研究事業」

認知症の人と家族の日本版一体的ケアプログラムの開発

目的

本研究事業では、認知症の本人と家族への一体的かつ専門的なサポートの実現を目指し、オランダをはじめヨーロッパで広がりつつあるミーティングセンターサポートプログラムを手がかりに、認知症の本人と家族を一体的に支援する効果的な介入プログラムの開発等そのあり方について実践を視野に入れた検討を行いました。

概要

主な事業内容

- ①先駆的に行われている国内の事例収集と検討
- ②オランダ、イギリスの事例収集と検討（委員会2回、作業部会2回を開催）

主な結果・成果

①先駆的に行われている国内の事例

対象事例：宮城県仙台市、京都府宇治市、福岡県大牟田市の3市

対象となった3市は、一体的ケアに求められる、「本人支援」「家族支援」「共同作業や共通の場」の3つの要素がすでに展開されており、それらを実施するにあたり関係者との情報共有の場が継続的に展開されています。一体的支援を実現するための課題は以下の通りです。

- 課題1 本人と家族がそれぞれのニーズや思いを話す場を共有場面が少ない。両者のためらいを軽減することが大切。
- 課題2 認知症の本人が集まるためには、医療機関等との密な連携が必須。新たな対象者への周知は課題。
- 課題3 支え手側の人材不足。現在でもボランティアで運営がなされていて人員の余裕はない。

②オランダ、イギリスの事例収集と検討

オランダ：1993年に、認知症の人と家族を一体的に支援する「ミーティングセンターサポートプログラム」がオランダのアムステルダム自由大学にて2ヶ所でモデル事業としてスタート。その実践の有用性が確認され国内で144ヶ所にまで広がり、現在ではデイサービスセンターをなくしミーティングセンターに変えていく潮流が生まれます。ミーティングセンターの柱は「認知症の人のプログラム」「家族介護者のミーティング」「両者へのコンサルティングと社会活動」です。「ミーティング」とは「出会い」と「話し合い」の意味を有し家族と本人の関係性を作り、地域での認知症ケアを支えています。

イギリス：2015年ドロイトウィッチ・スパという町で開始。水曜日、木曜日、金曜日の10：30amから4：00pmまで、場所は、コミュニティセンターで開催。オランダのモデルを採用し、オランダ同様にスタッフ育成のための研修も併せて準備。イギリス国内では2018年時点で7ヶ所設置されています。

③次年度以降の計画

次年度は、今年度検討された内容を基に全国5ヶ所においてモデル事業を展開する予定です。その際には、地域の実情に応じた既存の社会資源を活用し月1回程度から開催し効果測定を行います。

成果物

○研究事業報告書：関係団体に送付するとともに、当センターウェブサイトに掲載しました。

